

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

p-ークレゾールのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する繁殖阻害試験

試験番号

NMMP/E09/3040

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年4月採択）の改訂版であるガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」（1997年4月提案）に準拠して実施した。

- 1) 被験物質 : p-ークレゾール
- 2) 暴露方法 : 半止水式（週に3回、試験液の全量を交換）
- 3) 供試生物 : オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間 : 21 日間
- 5) 試験濃度 : 対照区、0.37mg/L、0.67mg/L、1.20mg/L、2.16mg/L、3.89mg/L および 7.00mg/L（公比1.8）
- 6) 試験液量 : 1 容器（連）につき 80 mL
- 7) 連数 : 10 容器（連）／濃度区
- 8) 供試生物数 : 10 頭／濃度区（1 連につき 1 頭）
- 9) 試験水温 : 20±1℃
- 10) 照明 : 室内光、16 時間明／8 時間暗
- 11) 被験物質の分析 : HPLC 法

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

実測濃度が設定濃度の $\pm 20\%$ を外れたので結果の算出には実測濃度の時間荷重平均値を用いた。

2) 21 日間の親ミジンコの半数 致死濃度 (LC50)

$$= 0.64\text{mg/L} \text{ (95\%信頼区間 : } 0.45\text{mg/L} \sim 0.89\text{mg/L)}$$

3) 21 日間の 50% 繁殖阻害濃度 (ErC50)

$$= 0.94\text{mg/L} \text{ (95\%信頼区間 : } 0.86\text{mg/L} \sim 1.04\text{mg/L)}$$

4) 21 日間の最大無作用濃度 (NOECr) = 0.52mg/L

5) 21 日間の最小作用濃度 (LOECr) = 1.00mg/L

(上記濃度は、実測濃度の時間荷重平均値に基づく値である)